

平成26年/2014

No.24
野口遵顕彰会

野口 遵

顕彰会だより



ごあいさつ

野口遵顕彰会

会長 清本英男

晩秋の候、皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は野口遵顕彰会に対しましてご高配・ご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、今年度の事業計画も順調に推移し「ジュニア科学スクール」事業を一部残すのみとなりました。

『野口賞』授与事業は、これまでで最多の10件の応募があり「選考委員会」の審査を経て「奨励賞」（賞金50万円）2件が決定し、先般「授賞式」を行いました。また、『ジュニア科学者の翼』は14回を重ね、これまでに161名の中学生を関東地区にあります科学館等に派遣しています。中学生の科学技術への関心を高めるといふこの事業の目的を果たし、関係者の皆さんの高い評価を得ています。

派遣研修生の中から優秀な者に対して高校入学時から3年間、毎年10万円が野口研究所から贈られる「学修奨励金」もすでに10回、13名に達して大きな支援となっています。そして、新たに取り組んでいます小学校5・6年生を対象に、「科学」に一層関心を高める機会として実施しています「ジュニア科学スクール」も順調にスタートしました。本年度事業の具体的な実施状況については別紙のとおりです。

「野口遵顕彰会」は、このように事業活動を通して広く認知されてきました。これからも新たな事業を模索しながら活動の一層の充実・発展に努めてまいります。

今後とも、皆様方の変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成26年11月

副読本縮刷版の配付事業

《「のべおか新興の母 野口 遵」》

野口遵翁の科学者として、また、世界的な事業家としての業績や延岡市の発展を知ってもらうために、中学生のみなさんに副読本「のべおか新興の母 野口遵」（冊子）の縮刷版（B6版）を毎年配付していますが、今回で10回となりました。延岡市、高千穂町、日之影町、門川町（2校）の各中学校および五ヶ瀬中等教育学校のあわせて26校の2年生全員に1,910冊を配布しました。



各中学校では、朝の読書の時間を活用するなどして、野口遵翁を理解するのに役立てています。

なお、今回の配付を含め、これまでの配付数は合わせて18,800冊に達しました。

青少年科学技術派遣研修事業

《第14回『ジュニア科学者の翼』》



“青少年に科学への夢と希望を育む事業”として毎年夏休みに実施していますが、今年も7月29日（火）から8月1日（金）の3泊4日の日程で実施しました。

延岡市、日之影町、高千穂町、五ヶ瀬町、門川町の26の中学校から選ばれた12名の皆さんを派遣しました（今回で延161名）。

この皆さんは関東地区にあります東芝科学館、野口研究所、科学技術館および日本科学未来館を訪問して、最先端の科学技術や医療、情報、環境、自然、宇宙等のフロンティア開発、産業など多岐の分野にわたり研修しました。

8月11日（月）の「報告会」では、今回の研修テーマ5つの中から研修生それぞれが事前に決めたテーマ別に、パワーポイントを使ってその成果（感想を含めて）発表しました。

<5つのテーマ>

- ①物づくりに生かされる科学技術
- ②生活を豊かにする科学技術
- ③地域環境を守り良くする科学技術
- ④人類の夢、未来をつくる科学技術
- ⑤医療の発展に貢献する科学技術

研修に参加した12名の皆さんは最先端の科学技術を学ぶことができたこと、自分の“夢”への意欲がさらに膨らんだこと、コミュニケーション力を高めるよい経験になったこと・・・などその成果を力強く発表し、今回の体験を将来に生かしていきたいと報告しました。

新しい科学技術分野を切り開いていく、世界的に高いレベルの日本の科学技術や研究者に触れることができたことは、参加した生徒の皆さんの発想を豊かにし、将来の夢、目標の指針として大いに役立ったことと思います。

今回『ジュニア科学者の翼』に参加した皆さんの中から、野口研究所「学修奨励金」授与者（第10回）に、東海中学校2年生 横田三友紀さんが決まりました。横田さんには、書籍や教材費の一助として高校入学時から高校在学の3年間、毎年10万円が野口研究所から授与されます。



『ジュニア科学者の翼』に参加した生徒および学校名（男子4名：女子8名）

氏 名	学 校・学 年	氏 名	学 校・学 年
柳 田 尚 輝	延岡中学校2年生	湯 川 瞭 香	恒富中学校2年生
名 村 三 冬	岡富中学校2年生	佐 藤 高 貴	西階中学校2年生
横 田 三友紀	東海中学校2年生	橋 口 巴 南	土々呂中学校2年生
寺 田 紅 美	南方中学校2年生	木 下 絢 水	北浦中学校2年生
日 吉 未 紀	三川内中学校2年生	藤 野 菜々子	聡明中学校2年生
田 邊 溪 太	高千穂中学校2年生	横 川 晟 吾	五ヶ瀬中等教育学校2年生

※引率 西村 浩一郎 延岡市教育委員会 学校教育課指導主事

<参加した生徒と保護者からの感想>

- ◇『ジュニア科学者の翼』に参加することができて、とても“良い研修と経験”ができました。言葉では言い表せないくらいです。これからたくさんの方にチャレンジしていきたいと思っています。
- ◇この『ジュニア科学者の翼』に参加していろいろと経験したことは、本人の一生の“宝物”になると思います。大変ありがとうございました。

第14回『野口賞』授与事業

《「奨励賞」(賞金50万円)2件が決まる!!》



第14回『野口賞』にこれまで最多の10件の応募がありました。選考委員の皆様による慎重かつ厳正な審査の結果、次の2件が「奨励賞」(賞金50万円)に決定しました。

授賞式は11月12日(水)17時からホテルメリージュ延岡にて行い、賞状と賞金がそれぞれ贈呈されました。

1. 宮崎県水産試験場内水面支場 支場長 毛良明夫 様
吉玉精鍍株式会社 代表取締役社長 吉玉典生 様
日之出酸素株式会社 代表取締役社長 柳田 淳 様
九州保健福祉大学 副学長 山本隆一 様
元東京大学大学院 教授 渡部終五 様

〈応募テーマ〉『宮崎キャビア熟成システム開発』

チョウザメの完全養殖と熟成キャビアの開発を30年にわたって模索して、日本で唯一成功した。そして、将来期待できる「宮崎発の新規事業」として完成させたことが高く評価されました。

昨年11月からこの熟成キャビアが販売開始されていますが、「宮崎の宝」として今後の成長・発展が期待されています。

2. 株式会社コムテック 代表取締役社長 笹栗 康 様

〈応募テーマ〉

『クラウドとSaaSを駆使したウシの発情発見・疾病管理・雄雌産分け・適時人工授精システムの開発と実用化』

牛が発情すると運動量が増えるという相関関係を確認し、牛の足につけた万歩計に似た装置をつけて、そのデータで処理、チェックするという技術開発を行い、その独創性と技術性が高く評価されました。

畜産業界進歩への貢献が期待されています。



「野口遵翁とカザレー博士」顕彰祭

《－ 未来に語り継ぐ会 －》

野口遵翁は大正12年(1923年)、当時鉄道も通っていなかったこの延岡にカザレー式アンモニア合成工場を建設して、その年の10月5日(土)16時30分、日本で初めての合成アンモニアが誕生しました。野口遵顕彰会ではこの合成アンモニアが誕生した10月5日を、この延岡が近代工業都市への夜明けとなった記念すべき日として、二人の偉大な功績を顕彰してこの「顕彰祭」を毎年開催しています。

今回で6回目の開催となり、50名を超える皆様のご出席を得て盛大に行うことで準備を進めていましたが、大型で強い台風18号の接近により中止となりました。大変残念でしたが、来年以降も引き続きこの「顕彰祭」は開催いたします。

第5回『ジュニア科学スクール』

《「ぐるっとターンロボット”を組立てて、走りを楽しむ！！》



昨年から新しい事業として小学校5・6年を対象に、実験や組立てなどを通して科学技術への関心を高め、楽しみながら学習する機会としてこの事業を実施しています。7月16日（水）東海東小学校において開催し、5年生全員（2クラス）53名が参加しました。

今回は、『障害物を自動で回避するロボットを組立て、そのしゅみを学習する』をテーマに、紙製のロボットをつくり、それに電池、モーター、リミットスイッチを組み込んで完成させました。そして、このロボットを動かして回避するしゅみを学習しながら楽しみました。組立てが少し難しかったようで予定の時間をオーバーしましたが、生徒の皆さんは完成したロボットが障害物を回避して動きまわるのを見て、とても満足して喜んでいました。

この事業はこの後、延岡小学校、伊形小学校で開催することで準備を進めています。

“曾木発電所遺構と曾木の滝”を訪ねて

《野口遵翁の偉業を偲ぶ！！》

野口遵翁が明治43年（1910年）鹿児島県伊佐郡大口村において、近くの金山に電気を供給するために曾木発電所を建設して（出力800キロワット）、事業家（経営者）としての第一歩を踏み出しました。そして、この発電所から県境を越えて水俣まで送電し、カーバイドや肥料の製造を始めましたが、これが日本化学工業界のパイオニアとなりました。



また、この曾木発電所は、明治時代の洋風建築物（レンガ造り）として貴重な“産業遺産”となっています。昭和40年ダム建設のため水没しましたが、現在は渇水期（洪水に備えて水位を下げています）の5月から9月に、中世ヨーロッパの居城跡を思わせるその姿をあらわします。

穏やかな秋日和に恵まれました11月16日（日）、32名の皆さんの参加のもと、この「曾木発電所遺構」と「曾木の滝」を訪ねました。大型貸切バスを利用し、開通間もない東九州自動車道、宮崎自動車道などを經由して現地を訪ねました。

この時期は水没しているはずの「曾木発電所遺構」は下流の鶴田ダムの工事によりその姿を見ることができて、野口遵翁の偉業を偲ぶことができました。

その後、曾木の滝公園内にて昼食をとり公園内にあります「曾木の滝」を見物しました。滝幅120m、高さ12mの大滝で滝幅は日本一を誇り、その壮大なスケールから「東洋のナイアガラ」とも呼ばれているだけあって水量の多さとその壮観さに一同すっかり見入りました。そして、公園内は紅葉がちょうど見ごろで大勢の人が訪れていましたが、過ぎゆく秋の一日をゆっくりと楽しみました。



「曾木の滝」を後にして、帰路にえびの市にありますコカ・コーラ工場を見学しました。工場は定期点検中で一部の装置しか動いていませんでしたが、ここで製造しているコカ・コーラとコーヒーを試飲することができました。

往復400kmに及ぶ長旅でしたが、参加した皆さんは疲れることもなく大いに楽しめました。

ご意見・ご提案について（お願い）

野口顕彰会活動や取組み事業に対するご意見・ご提案をお聞かせください。事業計画や活動に生かしていきたいと思っております。下記事務局までお電話、あるいはFAXにてお気軽にお寄せください。よろしくお願ひいたします。

「賛助会員」募集について（お願い）

野口顕彰会では「賛助会員」を常時募集しています。当顕彰会の趣旨・目的にご賛同下さる皆様のご入会をどうぞよろしくお願ひいたします。

賛助会費は、

（法人）1口 1万円／年間；（個人）1口 1,000円／年間

※何口でも結構です。

ご入会を希望される方がいらっしゃいましたら、お手数ですが下記までご連絡いただきますようお願いいたします。

●連絡先

野口 顕 彰 会 事 務 局

〒882-0824

宮崎県延岡市中央通り3-5-1（延岡商工会議所内）

TEL (0982) 33-6666

FAX (0982) 33-6682

